



企画展「ひろしま再発見」(平成26年4月5日～6月22日開催) 展示風景

## 目次

1	目次・館長挨拶
2	企画展「ひろしま再発見」
3	企画展「太田川の歴史」
4	イベント「おばけの夏休み」・「郷土資料館建物案内」
5	活動報告・博物館実習・インターンシップ
6	寄贈資料・平成26年度後期展示紹介

## 館長挨拶

8月20日未明の豪雨による大規模土砂災害で被災された皆様に、謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を心からお祈りいたします。

この災害で、安佐南区の阿武山と権現山の麓を流れる八木用水が土砂で埋もれ周囲の道路や家屋が浸水しました。八木用水は、江戸時代中ごろの明和5年(1768)に大工「卯之助」によってつくられた農業用水ですが、その経緯を記した碑「定用水碑」も流失してしまいました。郷土の歩みを語り続ける貴重な歴史的遺産の復旧も待たれるところです。さて、当館では4月から色々な企画展示やバラエティーに富んだ教室事業を開催し多くの皆様にご利用いただきました。誠にありがとうございました。今年から小中学生の入館料が無料になったこともあり、特に夏休み期間中は子どもづれのご家族で賑わいました。

今年度後半も、子供から大人まで幅広い年齢層を対象に伝統的なモノづくりやお菓子作りなどの教室事業や、近代史の一面を紹介する特別展など様々な事業を行いますので、より多くの皆様のご利用をお待ちしています。

(中田 幸治)

# 企画展「ひろしま再発見」

会期：平成26年4月5日（土）～6月22日（日）



展示風景①

平成25年10月に有名な重要文化財「安芸福田木の宗山出土青銅器」が広島市に寄託され、当館が収蔵施設に選ばれました。それまで、広島県内で公開されることが極めてまれで実物を目にするのが少なかった市民のために、お披露目の意味を含めて平成26年度最初の企画展での展示を計画しました。

特に、3点の青銅器のうち銅鐸は、「福田銅鐸」と呼ばれ、明治24年に発見されてすぐに、近畿地方に数多く分布する銅鐸とは異質のものとして注目を集め、中国地方のみに分布する福田型銅鐸の一つとして研究の対象となってきました。また、銅鐸という近畿色の強い青銅器と銅剣・銅戈という九州色の強い青銅器とが伴出したため、弥

生時代中期における近畿地方文化圏と九州地方文化圏の境界地域の文化の様相を示す資料として高校の教科書等でも取り上げられていました。しかし、近年、九州でも鋳型（佐賀県安永田遺跡等）が発見され、福田型銅鐸（佐賀県吉野ヶ里遺跡）が出土したことから、中国地方出土の一連の福田型銅鐸が北部九州地方で製作されたことが確認されるに至り、広島湾岸と北部九州地方との強いつながりを示す資料として再評価されることとなりました。

かなり前に出土していて、近年大きく注目されるに至った資料がもう一つあります。宇那木山第2号古墳出土の画文帯神獣鏡です。発見された当初は、あまり注目されませんでした。当時、



展示風景②

銅鏡としては中小田第1号古墳出土の三角縁神獣鏡の評価が高く、それが出土した古墳自体が国指定を取りざたされるほどでした。しかし、近年発掘調査の中で、銅鏡34面を出土した黒塚古墳の例や、発生期古墳として注目されるホケノ山古墳の例などで、三角縁神獣鏡以上に画文帯神獣鏡に対して高い評価が与えられ、注目されるようになってきました。また、宇那木山第2号古墳自体に対しても、近年広島大学によって行われた再調査の結果、安芸地方最古の前方後円墳であり、当地方の古墳文化を考えるうえで極めて貴重な古墳であると再評価されるに至りました。このことから、全国的に見て極めて分布域の限られる画文帯神獣鏡を入手するに至る経緯



展示風景③

が注目され、古代国家成立時の畿内勢力との強い関係性を示す資料として、高く評価されることとなりました。

さらに、広島市内で実施された近年の発掘調査にも、畿内政権成立当時の広島湾周辺の状況を窺わせる成果が、得られています。多量かつ高い比率での山陰系土器の出土から山陰との強い関連を窺わせる一連の可部バイパス関係調査遺跡群、特異な住居跡の形態と岡山地方との関連を強く窺わせる土器群の出土が極めて特徴的な塔之原遺跡は、どちらも古墳時代初頭から前期前葉に属しており、周辺の遺跡とは全く異なる文化的背景を持った人々の集落と言えるでしょう。これらの集落の出現は、近畿地方を中心に地域を超えた交流が活発になった古墳時代に、山陰と瀬戸内海をつなぐ流通の拠点たる広島湾沿岸地域の活況ぶりを如実に物語っているといえるでしょう。

以上のように今回の展示は、上述した土器群も含めて市内出土の著名な出土品約130点を展示することを通して、「ひろしま」が弥生時代から古墳時代にかけて、流通の拠点として重要な役割を果たしていたことを物語らせるべく企画されたものであり、その意味で現代の広島姿を市民に再発見してもらうことを意図した展示となっています。

（若島一則）

「ひろしま再発見～出土品から広島原像に迫る～」出品リスト

コーナー	出土遺跡名等	番号	資料名	備考		
青銅の祭り	安芸福田木の宗山	1	銅鐸	重要文化財、光町正宣氏寄託		
		2	銅剣	重要文化財、光町正宣氏寄託		
		3	銅戈	重要文化財、光町正宣氏寄託		
		4	銅剣(銅鐸 舌?)	矢野公民館蔵		
		5	銅剣			
新しい時代の足音	(銅鏃)	6	城ノ下A地点遺跡第21号住居跡出土			
		7	鯛之遺跡出土			
		8	長う子遺跡第6号住居跡出土			
		9	三谷遺跡出土(第二次調査)			
		池の内遺跡	10	鏡片(長直子孫鏡内行花文鏡)		
			梨ヶ谷遺跡第2号墓	11	鉄剣(75)	市指定重要有形文化財
				12	袋状鉄斧(66)	市指定重要有形文化財
				13	袋状鉄斧(67)	市指定重要有形文化財
				14	袋状鉄斧(68)	市指定重要有形文化財
	15			鉄鏃(69)	市指定重要有形文化財	
	16			鉄鏃(70)	市指定重要有形文化財	
	17			鉄鏃[たがね](71)	市指定重要有形文化財	
	18			鉄鏃[のみ](72)	市指定重要有形文化財	
	19			鉄鏃[のみ](74)	市指定重要有形文化財	
	20	鉄ヤリガンナ(73)		市指定重要有形文化財		
	大久保遺跡墳墓群	21	壺形土器(21)			
		22	鉢形土器(23)			
		23	壺形土器(25)			
		24	壺形土器(26)			
		25	壺形土器(27)			
		26	壺形土器(28)			
		28	鉢形土器(34)			
		29	壺形土器(35)			
		30	壺形土器(37)			
		(コシキ形土器[西岸])	31	鯛之遺跡SH3出土(6)		
	32		芳ヶ谷遺跡第3号住居跡出土			
	33		串山城遺跡住居跡出土			
	34		小林A地点遺跡第7号住居跡出土			
	35		黒谷遺跡第2号住居跡出土			
	36		大町七九谷B地点遺跡SH3出土			
	37		毘沙門台遺跡出土			
	38		毘沙門台遺跡出土			
	(コシキ形土器[東岸])		39	トンガ坊城遺跡出土(22)		
			40	トンガ坊城遺跡出土(10)		
		41	トンガ坊城遺跡出土(25)			
		42	トンガ坊城遺跡出土(38)			
		43	トンガ坊城遺跡出土(177)			
		44	上が原遺跡出土(5)			
		45	上が原遺跡出土(6)			
		46	上が原遺跡出土(35)			
		新たな国造りへ	宇那木山第2号古墳	47	画文帯遺珠乳三神三獣鏡	広島大学蔵
				48	倭製珠文鏡	広島大学蔵
	49			鉄剣	広島大学蔵	
	50			鉄槨	広島大学蔵	
	51			鉄斧	広島大学蔵	
	52			三重口縁加飾壺	広島大学蔵	
53	手摺形土器			広島大学蔵		
54	鉄鏃			広島大学蔵		

中小田第1号古墳	55	赤色顔料用石杵	広島大学蔵		
	56	吾作銘三角縁四神四獣鏡	広島大学蔵		
	57	上方作銘斜縁獣帯鏡	広島大学蔵		
	58	車輪石	レブリカ		
	59	短冊形鉄斧	広島大学蔵		
	60	有袋鉄斧	広島大学蔵		
	61	管玉 5	広島大学蔵		
	弘住第3号古墳	62	鉄鏃形鉄製品(第14図)	市指定重要有形文化財	
		63	鉄槨(剣身)(第17図1)	市指定重要有形文化財	
		64	大型鉄鏃(第15図1)	市指定重要有形文化財	
		65	大型鉄鏃(2)	市指定重要有形文化財	
		66	大型鉄鏃(3)	市指定重要有形文化財	
		67	大型鉄鏃(4)	市指定重要有形文化財	
		68	大型鉄鏃(5)	市指定重要有形文化財	
		69	銅鏃形鉄鏃(第16図)	市指定重要有形文化財	
		70	銅鏃形鉄鏃	市指定重要有形文化財	
		71	銅鏃形鉄鏃	市指定重要有形文化財	
		72	銅鏃(第16図26)	市指定重要有形文化財	
		73	ハス(第17図3・4・5・6・7・8)	市指定重要有形文化財	
74		鉄斧(9)	市指定重要有形文化財		
城ノ下第6号古墳	75	土師器(長頸壺1)	市指定重要有形文化財		
	76	土師器(高坏2)	市指定重要有形文化財		
	77	三重口縁加飾壺(68)	市指定重要有形文化財		
城ノ下第7号古墳	78	土師器(67)	市指定重要有形文化財		
	79	三重口縁壺(65)	市指定重要有形文化財		
成岡第3号古墳	80	三重口縁加飾壺(66)	市指定重要有形文化財		
	81	鉄剣(9)			
	82	鉄鏃(11)			
	83	鉄鏃(12)			
	84	骨鏃形鉄鏃			
	85	骨鏃形鉄鏃			
	86	骨鏃形鉄鏃			
	87	骨鏃形鉄鏃			
	88	骨鏃形鉄鏃			
	89	鉄ヤリガンナ(10)			
成岡第2号古墳	90	三重口縁加飾壺(5)			
	91	三重口縁加飾壺(6)			
ひろしま再発見	新石器時代後期の伝統を継ぐ土器群 同谷遺跡第2号住居跡	92	81 壺形土器(10図-3)		
		93	壺形土器(61)		
		94	壺形土器(64)		
		95	壺形土器(68)		
		96	壺形土器(83)		
		山陰地方の土器に類似した土器群	97	底脚杯(28)	
			98	鼓形甕台(30)	
			99	底脚杯(12)	
			100	壺形土器(26)	
		トンガ坊城遺跡	101	壺形土器(112)	
102	壺形土器(136)				
103	壺形土器(136)				
104	長頸壺(333)				
105	高坏(336)				
106	高坏(382)				
107	壺形土器(384)				
108	壺形土器(395)				
上が原遺跡	109	近畿・岡山地方の土器に類似した土器群			
	110	塔之原遺跡			

※( )は報告書番号

## 企画展 「太田川の歴史」

会期：平成 26 年 7 月 5 日 (土) ～ 8 月 31 日 (日)



企画展会場のようす (入口付近)

広島市の中心部は太田川河口のデルタに位置し、6本の川筋が市街地を縫うように流れています。また、市域の大部分は太田川の流域にあります。そのため、広島に住む人々の生活は古くから太田川と深く結びついていました。太田川は人々に水産物や生活用水、水運、電力など、さまざまな恵みをもたらしてきましたが、ときには人の力では制御できないほどに荒れ狂い、大きな災いをもたらしてきました。今回の企画展では、広島の人々が太田川をどのように利用し役立ててきたか、その一方で太田川はどのような災害をもたらし、人々はそれを克服するためにどのような対策を行ってきたかということについて、時代ごとの移り変わりを紹介しました。

展示の中心となったのは、太田川の景観を描いた絵画や絵葉書などをもとにした写真パネルですが、その中に地味な資料ですが古文書を1点

展示しました。この資料は江戸時代に高宮郡保田(現在の安佐南区川内と安佐北区口田の一部)に住み、広島藩主浅野家から太田川沿いの竹藪の管理を任されていたとされる保田家の系図で、その中の保田光統(1574～1650)という人物の事績に「慶長十二年丁未之夏洪水之節、五拾余町之開地流失大川与成(慶長12年夏の洪水により50ヘクタール余りの開墾地が流されて大川となった)」と書かれています。安佐南区の東部に古川という川がありますが、実はこの古川がもともとは太田川の本流で、それが江戸時代初期に現在の流れに変わったとされています。保田家系図は、それが慶長12年(1607)のことだとわかる貴重な資料なのです。(村上 宣昭)



保田家系図の展示風景

# 夏休みイベント「おばけの夏休み」

会期：平成26年7月19日（土）～8月31日（日）

毎年恒例となっているおばけ屋敷を今年もまた開催しました。すっかり地元の子供たちにも人気のおばけ屋敷ですが、恒例になったぶん、いったいどういった嗜好でやるのかで職員は頭を悩ますことになってきました。

最初は個人的な好みで化け猫にしようかとも思いましたが、それでは郷土資料館らしくありません。そこで、広島市内の怖い伝説を取り上げてみることにしました。そうすると興味深い伝説がみつかりました。人を川の中に引きずり込む怖い物としては、広島では猿猴川の猿猴が有名ですが、その他にも京橋川には大亀、本川には大鯉が深い淵に潜んでいて、ひとを淵の底に引きずり込んだと言われていたのです。

広島川は、水の供給源として、物資輸送の動脈として非常に重要な役割を持っており、人々の生活に密着した存在でした。一方で、時として人の命を奪う恐ろしい存在として人々に認識されていたのでしょう。川辺で無茶なことをしないよう、子供の教育にも使われたのかもしれない。

さて、この恐怖を演出すべく、去年のおばけ屋敷ではボランティア活動をされている方や職員にお願いし、試験的に脅かし役としておばけ屋敷に入っていました。するとこれがとても好評だったので、遂に今年は土日の時間限定でレギュラー登場しました。子どもたちに一夏の良い(?)思い出を与えるべく奮戦するボランティアさんたちのおかげで、土日はいつもよりも更ににぎやかな資料館になりました。泣いてしまった子供たち！郷土資料館のことは嫌にならないでね。(本田 美和子)



来年も来てね!

待ってるぜ!



# イベント「郷土資料館被爆建物案内」

実施日：平成26年8月6日（水）

8月6日原爆記念日に、広島市の平和関連事業の一環として、被爆建物案内を実施しました。内容としては、被爆建物である当館の建物の案内はもとより、戦中・戦後食として知られる江波団子や一銭洋食の試食、戦前の宇品港からの出兵風景をとらえた貴重な映像の放映などが行われました。これらの事業を通して、来館者に原爆投下当時の広島の人々の暮らしぶりを追体験してもらえればと考えています。

当日は、ボランティアの方々への応援を得て、たくさんの来館者で賑わいました。特に、試食コーナーは、日頃味わえない味覚がうけて、たいへん好評でした。



被爆建物案内の様子

(若島 一則)

# 活動報告

## 教室事業

4月13日(日)	和菓子作り
4月26日(土)	かしわもち作り
5月24日(土)	糸つむぎ教室
5月31日(土)	うちわ作り
6月7日(土)・14日(土)	藍でハンカチ染め
6月20日(金)・28日(土)	藍染めTシャツ作り
7月6日(日)	七夕飾り作り
7月13日(日)	漆喰ボール作り
8月29日(金)	大人の染色体験
9月7日(日)	月見団子作り
9月20日(土)	『ごんぎつね』に親しもう (紙芝居とおはぎ作り)

## イベント

8月6日(水)	郷土資料館被爆建物案内
---------	-------------

## 夏休みカンタン工作日程一覧

7月24日(木)・25日(金)	ふうせんオバケ
7月29日(火)・30日(水)	びっくりスティック
7月31日(木)・8月1日(金)	ホネホネあやつり人形
8月12日(火)・13日(木)	ぷにょぷにょオバケ
8月14日(木)・15日(金)	とびだすオバケ
8月19日(火)・20日(水)	かさぶくろオバケ
8月21日(木)・22日(金)	クルクルきらりん棒

## その他の事業・館外活動

4月26日(土)	宇品周辺でフィールドワーク「宇品地区の歴史探訪」
5月3日(土)～5日(月)	フラワーフェスティバル 会場で工作指導「かんたんからくりコイノボリ」
5月22日(木)	中国管区警察学校で講演「兵器支廠についての話」
6月1日(日)	広島城メモリアルデーで工作指導「からくりのぼり人形作り」
6月8日(日)	路面電車まつり工作指導「からくりのぼり人形作り」
8月2日(土)	広島県立歴史民俗資料館で工作指導「藍でハンカチ染め」
8月3日(日)	歴史体験オリンピックで体験・工作指導「一銭洋食作り・ 藍でハンカチ染め」
9月11日(木)	三篠公民館で講演「忠臣蔵と広島」
9月13日(土)	阿品台西小学校で体験・工作指導「きな粉作り・ホネホネ あやつり人形作り」



広島県立歴史民俗資料館で工作指導「藍でハンカチ染め」

## 博物館実習・インターンシップ

### ■博物館実習

今年度の博物館実習は4大学73名の見学実習と2大学3名の館務実習の学生を受け入れました。見学実習では、郷土資料館の概要や館務の実際についての講義の受講とバックヤードの見学を行いました。館務実習ではイベント・教室事業における指導やミニ企画展示の設営を経験してもらいました。

(田村 規充)

### ■インターンシップ

郷土資料館では毎年夏休み期間中にインターンシップの受け入れをおこなっています。今年は3大学・1中学校から7名の実習生を迎え、教室事業の補助や受付など、主に接客業務に従事していただきました。

(本田 美和子)

### ■見学実習

5月23日(金)	安田女子大学
6月1日(日)	広島修道大学
6月12日(木)	広島県立大学
6月27日(金)	安田女子大学
7月6日(日)	文教女子大学

### ■館務実習

7月31日(木)～8月7日(木)

### ■インターンシップ

8月8日(金)～8月13日(水)	県立広島大学4名
8月19日(火)～8月23日(土)	広島市立大学1名
8月26日(火)～8月30日(土)	安田女子大学1名
8月26日(火)～8月28日(木)	広島市立似島中学校



# 新着収蔵資料

2014年5月から2014年7月までにご寄贈いただいた資料です。

みなさま、ありがとうございました。

資料番号	資料名	点数	氏名	受入年月日
2014-1001	陸軍労務報綴【写真①】	1	岡本 博元 氏	2014.5.17
2014-1002	軍衣（三式 冬用）	1	奥田 道子 氏	2014.5.20
2014-1003	軍衣（三式 夏用）	1	奥田 道子 氏	2014.5.20
2014-1004	巻脚絆（冬用）	2	奥田 道子 氏	2014.5.20
2014-1005	巻脚絆（夏用）	1	奥田 道子 氏	2014.5.20
2014-1006	糖度計	1	木村 淳治 氏	2014.7.23
2014-1007	牛肉大和煮缶詰ラベル	1	木村 淳治 氏	2014.7.23
2014-1008	仕払簿（精算帳・明治34年1月起）【写真②】	1	木村 淳治 氏	2014.7.23
2014-1009	金銭判取帳（大正元年）	1	木村 淳治 氏	2014.7.23



【写真①】陸軍労務報綴



【写真②】仕払簿

平成 26 年度

後 期

展 示 紹 介

## 企画展『ごんぎつね』が語る昔のくらし

平成 26 年 9 月 6 日（土）～ 12 月 7 日（日）

新美南吉の童話『ごんぎつね』に出てくる、昔の道具や人々のくらしについて紹介します。

## 企画展 広島町新開絵図を読む

平成 26 年 10 月 18 日（土）～平成 27 年 1 月 12 日（月・祝）

江戸時代、干拓によって広島城下町は南に向かって拡大していきました。そのころの町の様子を知ることができる「広島町新開絵図」をとおして、当時の新開地の様子を探ります。

## 特別展 広島缶詰物語

平成 27 年 1 月 24 日（土）～ 4 月 12 日（日）

戦前の広島には、いくつもの缶詰製造会社が設立され、缶詰製造業は主要産業のひとつでした。そうした缶詰業の沿革を知ること、広島近代史の一面を紹介します。

ひろしま郷土資料館だより No. 88 2014年10月31日発行  
 編集・発行 公益財団法人広島市文化財団 広島市郷土資料館  
 〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20  
 TEL: (082) 253-6771 FAX: (082) 253-6772

